

産地戦略

実施期間 令和4～5年度

実施主体 おおいグリーンな栽培体系推進協議会
 都道府県 大分県
 対象地域 臼杵市、九重町
 対象品目 パプリカ



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

大分県内のパプリカ栽培の中で問題となっているうどんこ病、アザミウマ、コナジラミ等の難防除病害虫の防除は農業に依存せざるを得ない状況にあるが、抵抗性病害虫の出現による防除効果の低下が課題となっている。また、周年栽培のため栽培が途切れる期間がなく、別作型への害虫の侵入や高軒高ハウスでは5mを超えるパプリカの最上部に薬剤が届きにくいといった物理的な課題もある。このため、化学農薬の使用が傾向にあり、非化学的防除技術の利用による化学農薬使用回数の削減が強く求められている。

そこで、R4～R5に実施した各種非化学的防除技術の検討結果をもとに、各種天敵資材及び在来天敵昆虫や光反射資材等によるグリーンな栽培体系を実践し、持続可能なパプリカの生産実現を図る。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	栽培マニュアルに記載のとおり												
技術名	栽培マニュアルに記載のとおり												



グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	栽培マニュアルに記載のとおり												
技術名	栽培マニュアルに記載のとおり												

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R4 ●	目標R11 ●	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	5	▶ 5	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	0	▶ 5	栽培マニュアル記載技術の取り組み面積
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	0	▶ 5	栽培マニュアル記載技術の取り組み面積
省力化に資する技術の取組面積（ha）	0	▶ 5	栽培マニュアル記載技術の取り組み面積

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境省力	化学農薬主体の防除	▶ 各種天敵資材や物理的防除を取り入れたIPM防除技術	化学農薬の使用回数の削減・省力化 薬剤抵抗性の発生リスク軽減

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境省力	化学農薬の使用回数（回）	40	▶ 37	成分数にてカウント ベストガード水溶剤 3回→1回、グレースシア乳剤 2→1回

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）

* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

在来タバコカスミカメの利用技術を中心に、スワルスキーカブリダニ等の各種天敵を組み合わせて、アザミウマやコナジラミ等の害虫に対応するとともに、光反射資材を用いた仕切りカーテンの設置や改良防除ノズルの利用、病害の発生程度に応じた抵抗性品種の活用等の非化学農業防除技術を実践しつつ、実践段階によって生じる課題を関係機関で共有して解決していくことで、グリーンな栽培体系の普及・定着に取り組む。

関係者の役割

関係者名	生産者	県（振興局）	県（試験場）	
役割	グリーンな栽培体系の実践	実践段階における課題把握、解決方法の提案等	実践段階における課題解決方法の組み立て支援、情報提供、助言等	

その他